

中干しと生育診断で、適期・適量の穂肥を！！

6月29日の生育調査では、茎数、葉色ともに平年並みです。葉色が濃い、茎数が多いなど生育が過剰な圃場では、葉色の低下を待つとともに、控えめの穂肥、または穂肥を見送るなどの対応を行いましょう。食味を低下させる穂肥の増量、出穂直前の施用、多数回施用は止めて、食味重視の穂肥をしましょう。

●出穂期予測（6月29日幼穂調査、水田農業試験場）

早生品種「はなの舞」では、平年より4日遅く、「あきたこまち」「どまんなか」では、出穂期は7月27～28日で、平年よりも2、3日遅い予想です。

但し、仙台管区気象台が6月28日に発表した1か月予報では、平均気温は高い確率50%と予報されており、予想よりも早まる可能性もあります。生育診断を行い、圃場の生育に合わせた穂肥を行ってください。

幼穂による出穂予想(6月29日、水田農試:藤島での調査結果)

品種名	熟期	平年出穂期	予想出穂期	平年差
はなの舞	早生中	7月23日	7月27日	+4日
あきたこまち	早生晩	7月27日	7月29日	+2日
どまんなか	中生早	7月28日	7月31日	+3日

●各品種の生育に合わせた穂肥を行いましょう！ 生育診断が重要です。

①はえぬき

- 7/10頃(10.5葉期)に生育診断を行います。幼穂形成期(出穂25日前頃:平年7/11頃)に窒素成分1.5～2.0kg/10aを基本とし、診断の結果をみて、穂肥の量と時期を決定します(表1)。
- 7/10における生育が茎数700本/m²以上、または葉色(SPAD値)40以上であれば生育過剰です。いずれかの場合は、穂肥量を窒素成分1.0kg/10aに減らします。両方に該当しているなら穂肥をやめます。

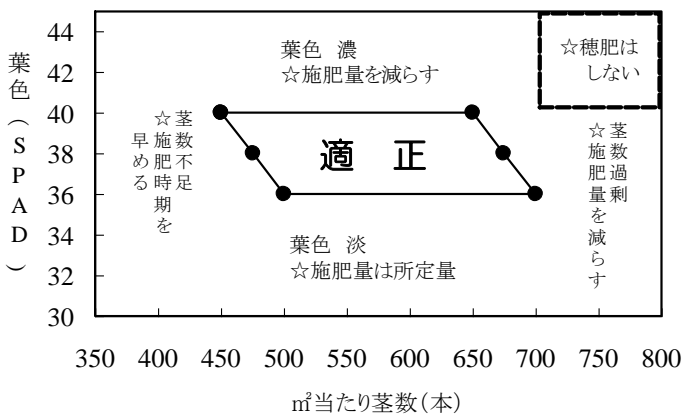


表1 はえぬきの7/10頃の生育による穂肥対応

7/10頃の生育	診断	対応
茎数 700 本/m ² 以上	茎数過剰	減肥する
茎数 450 本/m ² 以下	茎数不足	すぐに穂肥を施用
葉色 40 以上	葉色濃い	減肥する
葉色 36 以下	葉色薄い	基準どおり施肥

葉色板で、5以上であれば減肥しましょう。

図1 はえぬきの7/10の茎数・葉色による診断と穂肥対応

②ひとめぼれ

- 穂肥は、表 2 を基本としますが、出穂 20 日前(平年 7/14 頃)の草丈と葉色(葉色板)を測定し、表 3 のように対応しましょう。
- 出穂 30～35 日前(平年 6/29～7/4)の草丈に 30cm、出穂 20～25 日前(平年 7/9～14)の草丈に 15～20cmを加えた値がほぼ稈長となります。**稈長が 82cm 以上で倒伏程度が高まる**ので、これを目安として対応します。

表 2 ひとめぼれの基本的な穂肥体系(Nkg/10a)

	幼穂形成期 (-20 日)	穂孕期 (-10 日)
地力高	1.0～1.5	—
地力中	1.0～1.5	0.5

表 3 ひとめぼれの 7/14 頃(出穂 20 日前)の倒伏診断と穂肥対応

7/14 頃の生育		穂肥診断
草丈	葉色(葉色板)	
66cm 未満	5 未満	基本どおりとする
	5 以上	葉色が低下した後に穂肥する
66cm 以上	5 未満	減肥する
	5 以上	穂肥を行わない

③コシヒカリ

- 長稈で倒伏しやすいため、**作溝・中干しを確実に実施し、丈夫な根づくり**に努めましょう。
- 穂肥体系は表 4 を基本としますが、7/20 頃(11.5 葉期)に生育診断を行い、茎数と葉色(SPAD 値)から倒伏が懸念される場合は減肥します。減肥で対策が困難な場合は倒伏軽減剤(**※特裁では使えません**)の使用を検討します(表 5)。

表 4 コシヒカリの基本的な穂肥体系(Nkg/10a)

	幼穂形成期 (-18～15 日)	穂孕期 (-10 日)
地力高	1.0～1.5	—
地力中	1.0～1.5	(0.5)

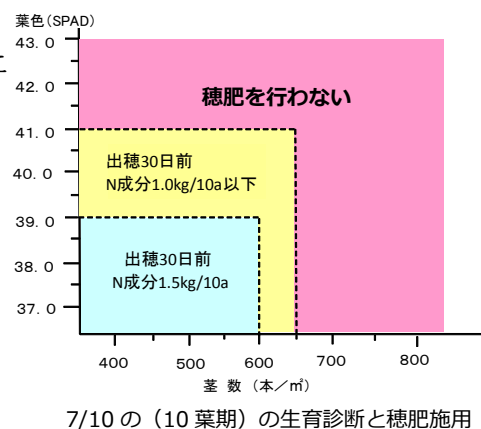
表 5 コシヒカリの 7/20 頃の草丈×葉色による倒伏診断と穂肥対応

草丈 (cm)	葉色(SPAD)	草丈×葉色	対応施肥量 (Nkg/10a)
71	33	2300 以下	1.0～1.5
72～75	34～37	2400～2700	0～1.0
76	38	2800 以上	倒伏軽減剤使用

④つや姫

- 穂肥は、**出穂 30 日前(平年 7/11 頃)に行います。**
- 右図を参考に生育診断を実施し、以下のように生育に合わせた穂肥を行います。

- ① 茎数 600 本/m²以下かつ葉色 39 以下の場合は、出穂 30 日前に窒素成分 1.5kg/10a を穂肥します。
- ② 茎数が 600～650 本/m²、または、葉色が 39～41 の場合は、窒素成分を減らして 1.0kg/10a 以下の穂肥を基本とします。
- ③ 茎数が 650 本/m²以上、または、葉色が 41 以上の場合は、出穂前 25 日頃まで葉色が低下したら、窒素成分を減らして 1.0kg/10a 以下の穂肥を行います。但し、**葉色が低下しない場合は、穂肥を行いません。**



農作業中の熱中症にご注意ください。

体調管理に十分気を付けて作業にあたりましょう。

